

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター センターだより第171号(通巻第238号)

2019年2月28日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

■平成30年度「第33回教育フォーラム」が開催されました

平成31年2月18日(月)に、山梨県立図書館において、山梨大学教育学部主催の「第33回教育フォーラム」が、山梨県教育委員会との共催で開催されました。

今回は、「子どもの育ちと外国語教育ー幼・保・小を繋げて考えるー」をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネリストには学校法人猿橋幼稚園事務長の仁科義民氏、韮崎市立韮崎北東小学校教諭で英語教育推進リーダーを務める八巻利之氏、山梨大学大学院教育学研究科教授の田中武夫氏をお招きし、山梨大学大学院教育学研究科教授の秋山麻実氏がコーディネーターを務めました。



パネリストからの提案内容について、田中氏は、「小学校外国語教育の動向について」と題して、小学校での外国語教育が次期学習指導要領によってどのように変わるのか、目標は何なのか、小学校の外国語教育で大切にしたいことは何かといった視点でお話をしてくださいました。また、八巻氏は、「外国語教育実践の現状について」と題して、実際の実践状況や意識している4つの視点、学習の中で工夫している点などについてお話してくださいました。仁科氏は、「幼児教育界での外国語教育の現状」と題して、幼稚園での外国語教育の現状と小中学校での外国語教育に期待していることや危惧していること、校種間の接続についてお話してくださいました。

その後、フロアも含めて、英語嫌いが増える理由等について議論されました。ALTを務めている方もお見えになり、「英語を大事に思わなくなるから、英語嫌いが増えるのではないか」という意見や「文法ではなく、まず単語が大切」という意見がありました。また、現職の先生からも「教師も生徒も失敗を怖がらず楽しんで英語を学んでいきたい」との発言がありました。

フォーラムには、61名の参加があり、「コミュニケーションツールとしての英語をいかに子どもたちに身に付けさせるのか」「そのためには、各校種間で連携し、接続を大切にしていける必要があるだろう」「失敗することを怖がらない、失敗してもいいんだという気持ちを育てたい」「大月駅や河口湖駅にいる外国人と触れ合うことで生の交流ができるのではないか」「子どもたちにとって英語がどのようなものなのかという視点が大切」「外国語学習が、クラスづくりにもつながる」などの意見が出され、「また次もこのテーマでやってほしい」という声も聞かれるほど、盛況のうちに終了することができました。



■第4回連携・教育研究会（山梨県総合教育センター研究大会）報告

平成31年2月21日(木)、山梨県総合教育センターにおいて、「第70回山梨県総合教育センター研究大会 創立70周年記念大会」が開催されました。第4回連携・教育研究会と兼ねており、本学からは来賓として、中村和彦学部長、田中勝附属教育実践総合センター長が参加し、また、アドバイザーとして、教育支援科学講座の鳥海順子教授、附属教育実践総合センターの渡井渡特任教授、小川巖客員教授、岡田正志客員教授、氏原一宏客員教授、山本英寿教授、成田雅博准教授、川本静香准教授、猪股真弥准教授の合計11名、及び本学から科学文化教育講座の山際基准教授も参加しました。

この研究大会は、県内外の小・中・高・特別支援学校の先生方をはじめ、大勢の教育関係者が集まり、山梨県総合教育センターの今年度の研究の成果を発信するとともに、特別講演やラウンドテーブルなども行われ、多くの学びに触れ合える、よい機会となっています。

今年度行われた概要を以下にお知らせします。

- ・記念式典…山梨県総合教育センター創立70周年ということで、県教育長をはじめとする県教育委員会の先生方、歴代の総合教育センターの所長・副所長の先生方等が参加され、盛大に記念セレモニーが行われました。
- ・記念講演…山梨県立博物館館長で筑波大学名誉教授の守屋正彦氏を講師に、「甲斐の伝統や文化に関する教育への誘い」と題して90分間の講演が行われました。内容は「文化不毛の地である山梨県と言われるが、蘭溪道隆や夢窓疎石らによって、山梨における禅宗文化は、日本でも早いうちに根付いていった。甲府にある東光寺をはじめとし、恵林寺・向嶽寺など、多くの史跡・文化が残されている。ぜひ、子どもたちに伝えてほしい」という山梨県民にとっては、地元山梨県を誇りに思えるような、大変興味深い内容でした。
- ・ポスター発表
…今年度のセンター研究（6グループ（小学校・中学校・高等学校・情報教育・教育相談・特別支援）とセンター研修・コスモス教室・一般留学生の計9つのグループ）の内容を18のブースで、2回にわたって情報提供が行われました。
- ・ラウンドテーブル
…6分野（小・中・高・情報教育・教育相談・特別支援）に分かれ、それぞれの分野で5人から6人のグループを作り、各分野が設定した研究テーマのもと、ラウンドテーブルが行われました。本学のアドバイザーもセンターの指導主事とともにファシリテーターを務めました。短い時間でしたが、様々な意見が出され、熱心に討議されていました。

多くの情報提供がなされ、大変有意義な時間を過ごすことができました。



■山梨大学教師塾「授業力養成講座」（第2弾）の開催報告

教育学部附属教育実践総合センターでは、「山梨大学教師塾プログラム2018」事業の一環として、1月30日(水)に「未来を描こう」をテーマに平成30年度山梨大学教師塾第2弾「授業力養成講座」を開催しました。今回は、教育学部2年生を対象に学校という職場のよさや教師としての仕事の魅力、効果的な授業づくりの方法を学び、学生への教職啓発と共に授業力の向上を図ることを目的としました。全体会では、武蔵野市立第五中学校教諭辻本昭彦先生をお招きし、ワークショップ型の講演「現場教師の資質能力」を行いました。103名の2年生が参加し、「教師はファシリテーターとして学びの促進者になること」や「OPPA論（一枚ポートフォリオ評価法）」

等について学びました。また、分科会では、本学部を卒業生した3名の現職教員（採用3年目）をお招えしました。3つのグループに分かれ、それぞれ学校の様子や教師の魅力等について体験談を交えて紹介してくれました。そこでは、「なんでもQ&A」もあり、参加者から多くの質問が出され、具体的なアドバイスをもらうなど有意義な時間となりました。

参加者は、ワークショップ等の活動にも主体的に参加するなど、熱心に聴講する姿がみられ、教育について多くのことを学ぶことができました。そして、3年次の教育実習やその後の教員採用試験等に向けて、自分なりに取り組み方を考え、教職を目指そうとする意欲をさらに高めていました。

[受講者アンケートより]

- ・ただ知識を詰め込むのではなく、子供たち自身が考え、それを自分の言葉で表すような授業に取り組んでいきたい。
- ・子供たちがどのような授業をしたら、学ぶことがことを楽しいと思えるようになるかということを考え、見つけられるように頑張りたい。
- ・子どもの考える時間を大切にしたい授業をつくっていきたく思った。また、その考える時間を楽しく充実したものできるように、教師として工夫できることを考えていきたいと思いました。
- ・実際の先生の生の声が聞けて、実習に対する気持ちが高まった。自分の将来を見直すよききっかけになった。
- ・実際の学校の様子や実態を知ることができてよかった。実際に先生をやっている方のお話を聞くことができて、先生という職業はいいなと改めて思いました。



全体会の様子



分科会の様子

■山梨大学教師塾「初任者元気アップ講座」の開催報告

平成31年2月7日(木)、教員採用試験に合格し4月から教壇に立つ予定の学生や、将来教員を目指している学生を対象に、山梨大学教師塾「初任者元気アップ講座」を開催しました。当日は、12名の学生が参加し、有意義な時間を過ごしました。

講師としてお迎えした先生は、青嶋和幸先生（甲府市立玉諸小学校主幹教諭）、大森竹仁先生（甲府市立南中学校主幹教諭）、勝村正樹先生（甲府市立甲運小学校校長）の3名で、御自身の経験をもとに、小・中学校の現状や管理職として初任者に望むこと等について、講義をいただきました。初任者としての心構えや学級づくり・授業づくりの手だて、保護者対応など多岐にわたる内容でした。具体的には、「一日一回は声をかけるなどして安心感や所属感のある学級を作ってほしい」「しかり方は難しい」「教師の姿勢が子どもを育てる」「指導記録をとろう」「ベテランになくて初任者にあるもの



は若さと発想力と行動力」「模範となる先輩教員を見つけよう」「保護者とは直接話をしよう」「教師には人間力が必要」などのお話をしていただきました。この100分は、参加した学生の不安を減らし、現場に立つ希望と勇気を与えてもらった時間となりました。

参加学生は、輝いた目で講師の話に聞き入り、きっと4月から、あるいは将来、子どもを中心にした教育を実践できる人たちであろうと確信できました。

◆参加者アンケートより（抜粋）

- ・ 授業実践も学級経営も不安を感じるものがたくさんあるが、失敗を恐れず、たくさんの先生のアドバイスを聞き、子どもと向き合うことが大切だと学んだ。
- ・ 私は、先生という立場になるまでに少し時間があります。その時間をより有効的に使えるよう考えていきたいと思いました。
- ・ 初任として学校に行く前の心構えや準備の仕方など、具体的に知ることができ、自分の中でイメージできるようにもなりました。
- ・ 実際に現場で働いている先生方の話を聞くことができ、とてもよかったです。不安なことが多かったですが、先生方の話を聞いて、学校の様子や先輩教員とのかかわり方、保護者との信頼関係の築き方などのアドバイスをいただけて、勉強になりました。
- ・ 非常に現場に近いお話を伺うことができ、とても勉強になりました。何より、3人の先生方皆さんが「一人で抱え込まないで、相談して」と話して下さったことが、4月からの不安を軽くして下さいました。春から頑張れそうな気がした講座でした。
- ・ 現実的かつ具体的なお話を聞くことができ、教採を目指すモチベーションアップにつながった。（3年）
- ・ 4月までにある程度時間があるタイミングでお話を聞くことで、今後の時間（現場に入るまで）を有効に過ごしていけると感じた。
- ・ 卒論の提出後であり、よかったです。
- ・ 採用試験からも日が経ち、卒論ばかりの時期で、教職のことをなかなか考えたり、意識できていなかったりしたこの時期に講座があり、また、気が引き締め、早く教壇に立ちたい気持ちを思い出せました。よい時期だと思います。
- ・ 教員採用試験に合格したものの、学習指導や保護者対応など4月からうまくできるか不安な気持ちでいっぱいでした。今日、3人の先生方からお話を伺って、少しは不安な気持ちを取り除くことができたのでよかったです。ありがとうございました。



■山口大学視察報告

教育学部附属教育実践総合センターでは、学部の教員養成カリキュラム、教員就職率向上プロジェクト等と連動して、教職の魅力を学生に伝え、教師としての授業力や専門性を高めるなど、学生が教師になるための支援を入学から卒業まで継続して取り組んでいます。

本センターが中心となって進めている全学プロジェクト「山梨大学教師塾プログラム」も今年で5年目を迎えたことから、今後の取り組みを更に推進・発展させ充実度を高めるため、他大学の取組を調査することとしました。平成31年2月1日（金）に附属教育実践総合センター教員（山本英寿教授）が山口大学教育学部附属教育実践総合センターを訪問し、山口大学における教職支援の取組について以下の項目の聞き取り調査を行いました。山口大学では山口県教育委員会等との一体的な連携のもと各種の特色ある取組を推進されており、山梨大学教育学部における教職支援活動の今後の展開を考えていくうえで多くの示唆を得ることができました。ご多忙の中、対応して下さった山口大学教育学部附属教育実践総合センター長の霜川正幸教授には心よりお礼申し上げます。



【調査項目】

1 教員就職状況

教員就職(合格)率, 高い教員就職(合格)率の要因

2 教員養成におけるの特色

「ちやぶ台方式」教職研修プログラム, 教育課程(カリキュラム)の特徴等

3 教職支援の取組と附属教育実践総合センターのかかわり方

教職支援の取組, 体制等

4 その他

これまでのセンターだよりの一部は, <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。